

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	I Le 埼玉 ミミ	公表日	2026年 3月 13日
------	------------	-----	--------------

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		意思決定支援に基づき児童をグループ分けする事で1人当たりのスペースを確保してる。また、休日には戸外活動の機会を増やす事で全身を大きく動かせる時間を確保している。	1人あたりのスペース確保については、法定基準は満たしているものの狭いと感じる意見が毎年多く寄せられる。施設の移転も視野にいれて行く必要がある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		スタッフの休みの日などは他店から協力をさせていただく形で基準を満たしている。	既存のスタッフの人数を増やす必要があり、よりよい個別支援をしていくためには基準以上の人員が必要と考えている。引き続き求人をかけ新規スタッフを募集していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	バリアフリーが十分でない箇所に関しては、児童が安全に移動できるようにサポートをしている。	建物が古く構造上からバリアフリーが十分ではない。(段差がある・段差が大きい) 工費が大きく発生しないものから対策をしていくが、引越しによりバリアフリー問題も解消する必要はある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		清掃スタッフを雇用している事で、清潔で心地よい空間が保たれている。	なし。車内状態や教室の様子をみて他店スタッフからもきれいに保たれていると意見を頂いている。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		○	気持ちが落ち着かない時などは、ドライブ対応や散歩等で気持ちの切り替えをしている。また、カーテンで仕切れるスペースが1か所ある為、仮眠時などに使用している。	体調不良の児童が出た際には2階のスタッフスペースで対応をおこなっているが、日常的に使用する事が難しい。パーテーションや簡易個室の検討をしたこともあるがスペース的な問題も発生する。児童にとってゆっくり過ごせるスペースは必要不可欠なためどのような方法を取るのがベストか思案していく必要がある。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		モニタリング後のMT、計画作成後のMT、ケース会議・支援会議・日々の業務の申し送りなどディスカッションの場を多く設けている。また、ヒヤリハットを活用し報告・分析、評価・改善に努めている。	大きな事故を防ぐためにはたくさんの気づきとヒヤリハットの報告が必要である。少しずつ習慣化しているが、些細な事で報告があげられるよう指導をしていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		客観性の確保・信頼の向上・職員の意識改革をおこなえるというメリットから今後は外部評価の利用も検討したい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		月1回法人内の事業所でのケース会議勉強会をおこなっている。また、ST主導による勉強会もおこなっている。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		更新毎に保護者面談をおこなっている。また、新規児童に関しては保護者・相談支援員を交えたアセスメントを行う事で児童発達支援での様子の引継ぎや共通認識をおこなっている。その後、アセスメントに基づき支援会議をおこないどのような支援をしていくかの話し合いをおこなっている。 会議後に計画を作成し、再度MTをおこないスタッフ間での共通理解に努めている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		面談によるアセスメント共有・日々の連絡帳や申し送りなどで確認をしている。また、スタッフ間で日々の何気ない様子などを共有することで児童に対する理解を深めている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		毎月活動カテゴリにあわせて支援プログラムを立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		口角筋トレーニングや平仮名マッチング等反復する活動もあるが、日毎に支援内容を設定している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		静の活動と動の活動を組み合わせることで、個別活動と集団活動に対応している。計画も個別支援・人との関わりやSSTに関しての内容を組み込んでいる。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	○		基本的な生活習慣、調理活動、買い物等では自立スキルを養い、創作活動では季節の製作や音楽・リトミック・調理活動では豊かな感性や想像力を育めるように支援している。戸外活動では子供が自分で楽しみを見つけ、集団の中でのルールや人のかかわり方を学べる様に支援している。また、児童館に訪れたり市役所のイベントなどに参加する事で地域交流の機会の提供をおこなっている。	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		おやつや活動では子どもが自分で選べる環境を作っている。また、子どもの様子をみながら意思表示の尊重をおこなっている。	自分の思いが伝えられない子に対しての支援の仕方・NOの伝え方等（ジャスチャー・絵カード等）を引き続き支援をおこなう事と伝えやすい環境を整える事が必要。	
関係機関や保護者との連	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		担当者会議では、状況にあわせて 保護者・相談支援員・管理者・児発管・担任教師等複数人で参加できる場を設けている。（子ども支援課・障がい福祉課・保険医・臨床心理士・児童相談所が参加するケースもあった。）	状況やケースにあわせて多角的な支援をおこなえるように、継続して各関係機関と連携を取っていく必要がある。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		引き渡し時に申し送りを受けている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		新規児童に関しては、契約アセスメントの際に相談支援員の同席をお願いしている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		相談支援員を通して情報提供をおこなっている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		クリニックの臨床心理士やSTと連携し助言を受けている。	

携	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		児童館や公共の施設に赴くことで地域の住民と空間を共有する機会を設けている。	一緒に活動する機会は少ない為、イベント情報などをこまめにチェックし機会提供に努める。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。		○		スタッフの不足により中々時間調整が難しい。スタッフを補充することで参加する機会を増やして行く必要がある。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○		連絡帳や活動記録・送迎時の申し送りなどで日々の様子の共通理解を図っている。	スタッフによりムラが出ない様に、スタッフ教育に努める。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	個別面談などはおこなっているが、研修会の機会は設けられていない。要望があればテーマ別の研修の機会も検討していきたい。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		定期的な個別面談をおこなっている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		個別面談や日々の申し送り時・電話での対応をおこなっている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		開催できていない。ご要望があれば、懇親会や親子参加の活動(運動会・親子クッキング・各種イベント)等の機会を設けていきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		ハグ内でおこなっている。「活動記録(ブログ)お知らせ・ショートメッセージ機能を活用」	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報を含む書類の施錠管理・デジタルデータはアクセス制限をしている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		地域住民を招待する機会は設けられていない。どのような形が児童・住民にとって無理なく楽しめるのかを検討していく。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		避難訓練の様子等活動記録や連絡帳に記載している。	より保護者の方が安心感を得られるように様々な研修・訓練の報告等が必要。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○				

54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			
----	--	---	--	--	--